チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名（注１）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-（事務局用）	地域資源を活かしたまちの魅力向上について	豊中市
チームがつけたアイデア名（公開）（注２）	Make with Music –音と共に作る-		

（注１）地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注２）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

１．応募者情報　赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	しあわせボンバーズ	
チーム属性（公開）	１．市民、２．市民／学生混成、３．学生	3
メンバー数（公開）	５　名	
代表者（公開）	開發　裕介	
メンバー（公開）	来馬　颯、多田　笙馬、木村　ひなた、栗本　幸音	

【注意書き】※　必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

１．　応募の際は、ファイル名を COG2022_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

２．　アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

３．　公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示ー非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja、および、https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja　をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）

４．　上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）

５．　この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

６．「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。

７．「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（２．の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○

2．アイデアの説明（公開）　　(1) アイデアの内容（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたくなる**、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**２ページ以内**でご記入ください。

＜応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください＞

子育て世代の転出超過による、少子高齢化。

＜この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます＞ ＜アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。＞

＜よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です＞

下記のアイデアを実現することにより、豊中市南部地域が文化的に活性化し、若者が住みやすい街に一歩近づくことが考えられる。それにより、子育て世代の転入を促し少子高齢化の解決の一助になることが考えられる。

・「何を」する

音楽を通したコミュニケーションが取れる広場、場所を作る。

好きな音楽を共有する場所。共有するためのイベントをその場所で開催。

例：

「学生が高齢者に教わる７０年代ロック講座（仮）」

「高齢者だって青春はあった」

→10 代 20 代の学生と高齢者との交流

「三世代交流会（仮）」

→子育て世代と団塊世代の交流

・「誰が」

音楽が好きな豊中市南部地域の老若男女

・「いつ」

１ヶ月に１回程度

90 分のイベント（大学の授業 1 コマ分）

・「どこで」

島田小学校跡地の旧教室を活用

・「どのように」

小学校で使っていた椅子や机を使ってグループディスカッション形式で実施。

音楽や映像を流すことができるように、CD /レコード/VHS /DVD プレイヤーやスピーカー、テレビモニターも用意し、再生しながらテーマにあった各自の思い出や楽曲、記憶を共有する。

ビールやジュースなどを飲みながらリラックスして語り合える場にする。

2．アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

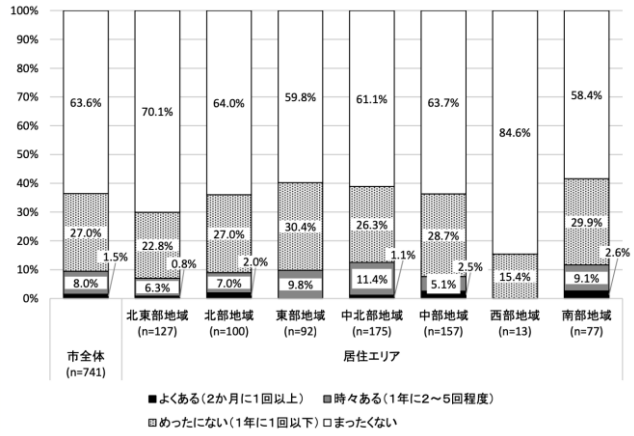
＜この「アイデアを提案する理由（なぜ）」を書いていきます＞

＜先の（１）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます＞

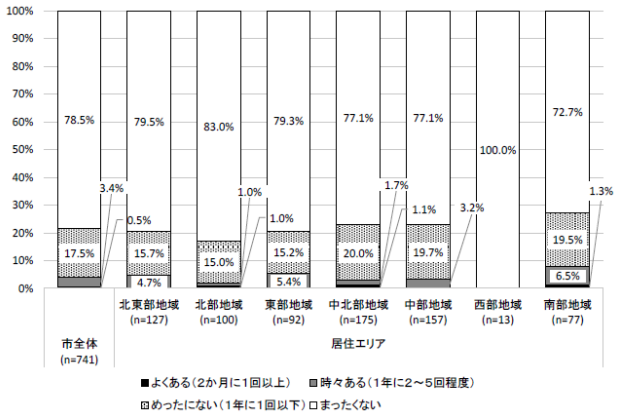
■豊中市南部地域住民の特徴

以下は「とよなか都市創造研究所研究報告書　2022 年」によるデータを示している。

アンケートの「コンサートなどによるクラシック以外の音楽鑑賞」において南部地域は、他の地域と比較してクラシック以外の音楽鑑賞を楽しむ層が多いというデータ（図 1）や、街角での音楽イベント参加率の高さ（図 2）、カラオケによく行く人が多い（図 3）といった傾向がみられる。つまり、音楽を楽しみたいと考えている人が多く、音楽を楽しむための文化的志向が見て取れる。このような地域であるからこそ、音楽を通してコミュニケーションを取れる場を作ります。



（図 1）コンサートなどによるクラシック以外の音楽鑑賞

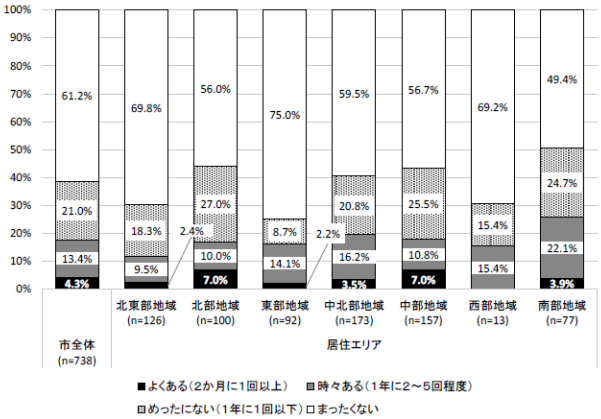


（図 2）街角での音楽イベント参加

■旧島田小学校を活用する理由

豊中市南部地域では現在、「豊中市南部地域活性化構想」により小中学校の統廃合が進められている。これにより、今まで各地域に分散していた小中学校機能が庄内さくら学園に集中することになった。

そのため、島田小学校は 2022 年度をもって閉校される。「南部地域の学校跡地に関する個別活用計画」により、旧島田小学校は校舎をそのまま残すこととなっている。また、旧島田学校跡地は共同利用施設（地域コミュニティ拠点・避難所としての活用計画）としての用途を行政方針として示されている。



（図 3）カラオケ

また、豊中市南部地域の住民にとっても馴染みの深い校舎を利用することによって、昔の思い出を蘇らせる効果が期待できる。それにより、開催するイベントが活気豊かになることが見込まれる。

2．アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1．実現する主体

2．実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

3．実現にいたる時間軸を含むプロセス

＜1．実現する主体＞

ミュージックコミュニケーション専攻を中心とする大阪音楽大学及び大阪音楽短期大学の学生主体に活動。また、豊中市南部地域の住民や他県の人でも気軽に活動に参加する事ができ、コミュニケーションを取ることによって様々な音楽を知り、より音楽に興味を持ってもらえると考えられる。

＜2．実現に必要な資源＞

ヒト：企画、運営、その現場の環境作りを大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻の学生が行う。

モノ：利用する施設は騒音の迷惑にならない場所で、旧島田小学校跡地の教室を考えている。また、各種 SNS（Twitter、Facebook）やチラシ・広報誌で宣伝していくことを想定している。

（SNS においては参加者との相互コミュニケーションを図ることができる。例として、開催場所において流す曲のリクエストを募ることや、イベントで実施する企画のアイデアを募ることなどが可能である）

また、実施する企画によっては宣伝効果も発生すると考えられ、温泉や居酒屋などのまちの事業所との協力もできることが見込まれる。

カネ：この活動に掛かる費用は、ごく少なく済むと想定される。現段階で想定される必要な機材として、音楽を再生する装置（スピーカーやアンプ、レコード/CD プレーヤーなど）や映像再生機器（DVD /VHS）であり、これらは大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻にて用意することが可能である。さらにこの企画が発展し、より多くの費用が必要であると認められる場合には豊中市の助成金を獲得し充てようと考えている。

＜3．実現に至る時間軸を含むプロセス＞

月に一度大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻が、豊中市南部地域の住民を集め、旧島田小学校跡地の教室を利用し音楽交流企画を行う。そのために、1 か月前から、SNS や広告(チラシ)などによってその活動がどこで行われるかなどを知ってもらう。

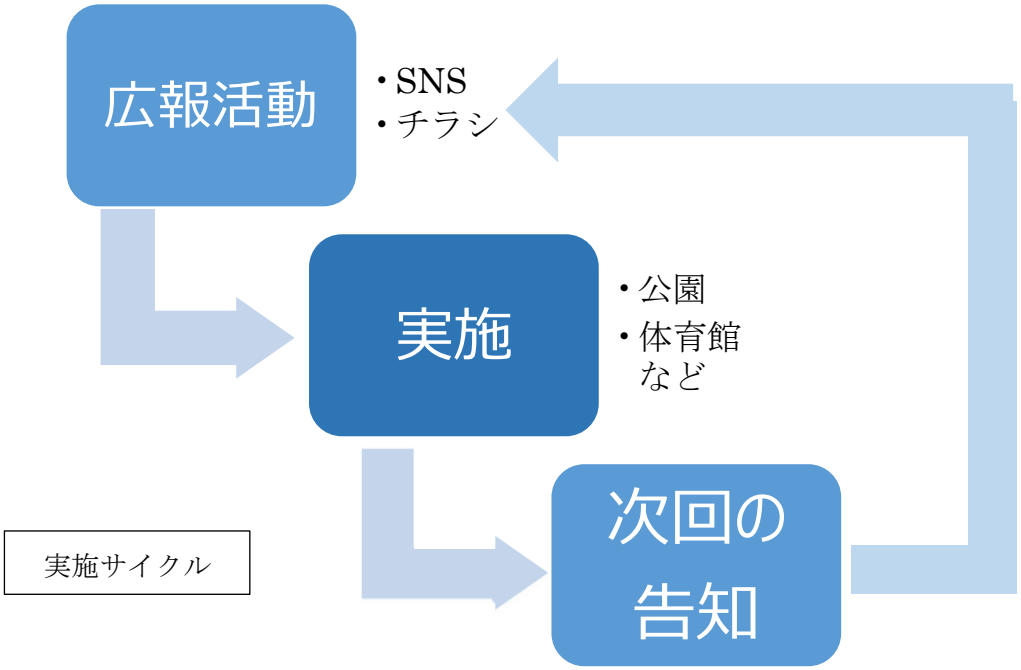
活動を行った時に、次の活動を告知することで、システムが回転するようになる。

定期的な活動によって、住民同士が自然と音楽を通してコミュニケーションをとれる場所を作る。

この企画の最大の特徴は、**非常にシンプルでありながら的確に問題を解決することの出来る糸口や鍵となりうる**点である。個々人の趣味の範囲を超えた音楽に触れる機会が生まれ、幅広い年代の多様な音楽を新しく知ることができる。このような場所がこの豊中市南部地域には必要なのである。

2．アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）



実施サイクル